

学部4回生・大学院生のための
フルテキスト入手法

卒論・研究きちんとスタート!シリーズ②

2021.6 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当

皆さんこんにちは。

E-learning教材「卒論・研究きちんとスタートシリーズ② 学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法」を始めます。

学生の皆さんの他、新しく大阪大学にいらっしゃった研究者の方にとっても研究活動の参考にしていただける内容です。

卒論・研究きちんとスタート！ シリーズのラインナップ

- ①学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ
必要と思われる文献の書誌情報を得る
- ②学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法
得た書誌情報をもとに実際に論文を入手する

卒論・研究きちんとスタート②フルテキスト入手法

本シリーズ「卒論・研究きちんとスタート」は2つの教材から構成されています。

1つ目は、「学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ」という教材です。

文献探索を行い、自分にとって必要と思われる文献の、書誌情報を得る方法を学びます。書誌情報とは、論文のタイトル、著者名、雑誌名といった情報のことです。

2つ目が、この教材「学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法」です。

文献探索を行った結果として得られた、論文の書誌情報をもとに、実際に論文を入手する方法について詳しく学びます。

このように、文献情報を探すというプロセスと、実際にその文献を入手するというプロセスを、2つの教材に分けて解説してゆきます。

本講習会の目標

学習目標：

大阪大学の環境で論文フルテキストを入手する方法を理解し、
必要な論文を入手できる

卒論・研究きちんとスタート②フルテキスト入手法

この教材の学習目標は、大阪大学の環境で論文フルテキストを入手する方法を理解し、必要な論文を入手できるようになることです。
雑誌論文にフォーカスした内容になっています。日本語論文・英語論文共通に活用できる方法です。

本講習会の構成

- 2つの予備知識
- シチュエーション1：参考文献リストの情報から
- シチュエーション2：論文データベース検索結果から
- ILLサービス
- 自宅や出張先からフルテキストへ

卒論・研究きちんとスタート②フルテキスト入手法

本講習会の構成は、このような形になっています。

前半では、2つのシチュエーションから、論文フルテキスト入手の実際を紹介していきます。

そして後半では、便利なサービスとして、ILLサービスや自宅などからフルテキストを入手する方法も解説します。

今後、幾度となく繰り返す論文入手作業ですので、的確な方法をぜひ本教材で学んでいただければと思います。

2つの予備知識



この後の話の前提として、まずは2つの予備知識を踏まえていただきたいと思います。

予備知識1：雑誌と論文の関係性

雑誌1号の中に複数の論文が入っている、という構造

冊子の雑誌でも、オンラインの雑誌でも基本的には変わらない

論文Bは「雑誌Yの1巻1号のp.7-15に掲載されている論文」と表現できる
=論文の住所のようなもの。入手するときの大きな手掛かりになる



卒論・研究きちんとスタート②フルテキスト入手法

1つ目は、雑誌と論文の関係性です。

雑誌の1つの号の中には、複数の論文が入っています。

また、何巻何号という2段階のナンバリングがなされ、1年ごとに巻が1ずつ増えていく雑誌が多いです。

このような構造を踏まえると、論文Bは「雑誌Yの1巻1号の7ページから15ページに掲載されている論文」という表現ができます。これは論文の住所のようなもので、論文フルテキストを入手する際の大きな手掛かりとなります。

予備知識2：論文入手の3つの手段

その1. 電子ジャーナルをダウンロード

その2. (大阪大学所蔵の) 紙の雑誌をコピー

その3. ILLサービス

複写を取り寄せ、他機関へ訪問利用

ラク・早い・安い

手間・時間・お金がかかる

★POINT

その1→その2→その3 の順番に、入手可否を確認しましょう
入手の必要性に応じて、どの手段まで駆使するか考えましょう

卒論・研究きちんとスタート②フルテキスト入手法

2つ目の予備知識です。論文フルテキストを手に入れるためには、大きく分けてこのような3つの手段があります。

その1として、電子ジャーナルからPDFファイルをダウンロードできればてっとり早いですよね。まずはこれができるかどうか確認します。PDFファイルが利用できない場合、その2として、阪大で所蔵している紙の雑誌があれば、そこに載っている論文をコピーすれば入手できます。とくに古い論文についてはこの手段を取ることが多いです。阪大に紙の雑誌も無い場合、その3として、他大学図書館から論文のコピーを送ってもらう、という手段があります。これをILLサービスといいます。

PDFファイルですべて手に入れば素晴らしいのですが、まだそういう状況にはなっていません。そして、PDFで手に入る文献が、いい文献であるとももちろん限りません。

紙の雑誌からのコピーやILLサービスも選択肢として念頭に置いて、必要に応じて駆使していただければと思います。